

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名	ミアヘルサ保育園ゆらりん下目黒
施設所在地	東京都目黒区下目黒6-18-11
法人名	ミアヘルサ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【自然】風

<テーマの設定理由>

室内の窓から、風に揺れる木々の葉に興味を示す姿や、散歩の途中で風が吹くことを喜ぶ姿が見られていた。園庭のある環境を利用し、風が吹いていることに子どもが気付いたタイミングで活動を始めたかったため。

2. 活動スケジュール

令和7年11月26日、12月8日、令和8年1月26日、1月30日、2月9日、2月18日

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・朝の会の天気確認の際に、風が強く吹く予報があった日はそのことを知らせておき、風に気付けるようにしていった。2階ウッドデッキ、園庭遊び、散歩先など、戸外に出た時は、風の音に耳を澄ませられるような声掛けを行った。
- ・保育者はうちわを準備し、導入として使用した。子ども達が考えて保育室の中から選んだもの(新聞紙、粘土板、自由画帳、人形の赤ちゃんの布団、段ボール、レゴブロックの板、ピンチハンガー)
- ・子ども達が考えて保育室の中から選んだもの(粘土板、レゴブロックの板、自由画帳、ピンチハンガー、パズルの入っているタッパー、アーティックブロックが入っているカゴ)
- ・壁に模造紙を複数枚貼り、前後左右に大きく掛けるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 戸外に出て風の音に耳を澄ませた。
- ・ 子ども達に風を起こせそうなものがないかを聞き、各々が考えたものを保育室の中から選んで、風が起こるか探求した。
- ・ 保育室にあるもので音を出し、風のような音がするのかを試してみようと提案し、子ども達が選んだもので音がするのか、出た音は風のような音がするのかを探求した。
- ・ クレヨンで風を描いてみた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 園庭で耳を澄ましていたが「聴こえない」という声が最初に聞かれた。場所を移して再度耳を澄ましていると、「シャー」「ヒュー」「チャチャ」と知らせてくれた。散歩先では音ではなく、沢山ある木々が揺れていることに目がいき、音に関しての言葉は出なかった。2階ウッドデッキは工事の音が大きく、「ガガガって聞こえる」と重機の音は聞こえたが、風の音は聞こえないようだった。
- ・ 直観で選んで持ってくる子だけでなく、風が起きるかイメージしにくい子もいて、なかなか持ってこられない子もいたが、友だちが持ってきたものと同じものやそれを参考にして似たようなものを持ってきていた。友だち同士で風を起こそうと、ものをうちわのように扇ぐ動作をし、反応は以下の通りである。
- 段ボール、ピンチハンガー、ブロック…「こない」「全然しない」
- 人形の布団…子どもによって「くる」「こない」
- レゴブロックの板、自由画帳、粘土板…「風、結構する」「涼しい」
- 新聞紙…「あまりきてない」
- ※新聞紙は「次は先生がやってみるね」と保育者が扇ぐ動作をすると、風が起こり「風が強い」とはしゃぐ姿があった。
- レゴブロックの板と人形の布団は、風が起こりやすいと気付いたようで、自分が持ってきたものと交換し、自ら風を起こすことを楽しんでいた。
- ・ 選んだものを自分で振り、音が出るか確認した。反応は以下の通りである。
- 粘土板、レゴブロックの板、自由画帳、ピンチハンガー…「音しない」
- パズルの入っているタッパー…「かたかた音する」
- アーティックブロックが入っているカゴ「がしゃがしゃ音するじゃん」
- 「風の音？」と保育者が聞くと、「うーん」と考えている表情を見せて、「分からない」と答えた。
- ・ 皆、最初は好きな色で、ぐるぐるとなぐり描きのような絵を描いていた。単色で描く子、複数の色を使って描く子がいた。描いているものに対して質問すると、次のような答えが返ってきた。
- 「まぜまぜまぜ」と言葉にしなげら、複数の色を使ってなぐり描きをしている子
→「まぜてレインボーにしているの」
- 雲の形を描いている子(複数名)
→「雲の風」「雲から風」「雲の中に風」
- 渦を巻いている絵を描いている子
→「風がこういう風に吹いてるの」(右側から渦を巻く様子を指で表現しながら)
- 黒と紫のなぐり描きをしばらくした後、左側に直線を長く引いていた子



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 風の音を聴く時、音が聴こえず「ヒュー」と口で表現する子の姿を見て、子ども達の中に風の音のイメージがあるのだと感じた。
- ・ 風の音を感じると同時に、木々が揺れる様子を見ている姿から、聴覚と視覚の情報が同時に入っているようだった。
- ・ 風を起こす活動をしていくうちに、大きくて厚さの薄い硬いものは風を起こすと気付いた子が複数名いて、その子達はレゴブロック、粘土板を交互に使って風を起こしていた。友だち同士で風を掛け合い、風がかかることや髪の毛がなびくことを楽しんでた。最終的に、誰が強い風を起こせるかを競っていた。
- ・
- ・ 普段は、身近なものを揺らしたりぶつけたりして音が出ることに気付いているが、いざ音を出そうと提案すると、考えてしまう子が見られた。保育室をゆっくりと歩き回り、いつも使っているロッカーやお道具箱、玩具の棚を見渡すことで、思い出したように道具を選んでた。
- ・ 自分で選んだものから音が出ると笑顔を見せ、保育者や友だちに聴かせようと、耳元に持ってきて「ほら」と聴かせてくれた。自分の考えていたことがその通りだと分かった時、それを知らせたい気持ちが出てくるのだと思った。
- ・ クレヨンで風を描く活動では、子ども達の風のイメージは、空からくるようだった。
- ・ どのようにしたら風がおこるかを自分自身で考えて、より大きく腕をふれば大きな風がおこることにすぐに気づき、教え合う姿が見られた。